

設計課題 「景勝地に建つ土間スペースのある週末住宅（木造2階建）」

1. 設計条件

ある地方都市の中心市街地に住む家族が、車で1時間ほど離れた景勝地において、友人を招いて過ごすことのできる土間スペースのある週末住宅を計画する。

計画に当たっては、次の①～③に特に留意する。

- ①南側に広がる山麓の良好な環境を、眺望できる計画とする。
- ②居間は、明るく開放的な空間となるように吹抜けを設け、くつろいだ雰囲気ですぐ友人と歓談できる場とする。
- ③屋外活動の準備等、多目的に利用できる土間スペースを設ける。この土間スペースは居間に隣接し、居間と一体的に使用することができるようにする。

(1) 敷地

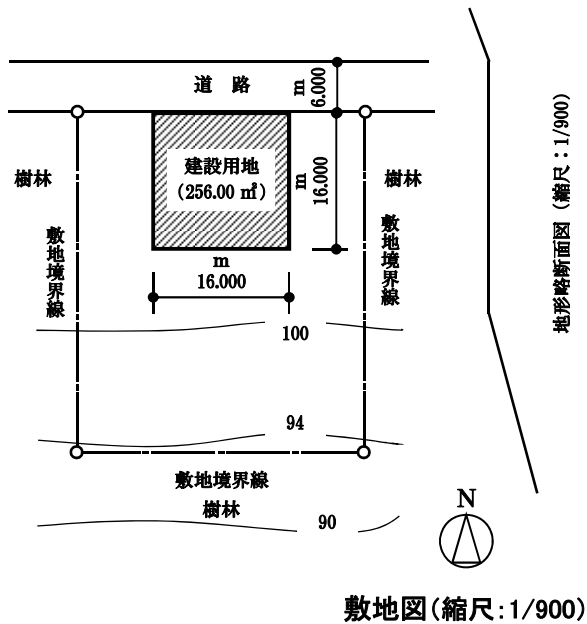
ア. 形状、道路との関係、方位等は、右図の通りである。この敷地のうち、住宅及び屋外施設等の建設可能な建設用地は斜線で示した部分である。

イ. 用途地域、その他の指定はない。

ウ. 建設用地は平坦で、道路及び建設用地周辺との高低差はなく、地盤は良好である。

エ. 建設用地内に住宅及び屋外施設等を計画する。

オ. 電気、ガス及び上水道は完備しており、下水は浄化槽（建設用地以外）を設置し放流する。



敷地図(縮尺:1/900)

(2) 構造及び階数

ア. 建築物の耐震性に配慮する。

イ. 木造2階建てとする。

ウ. 建築物の最高の高さは10m以下、かつ、軒の高さは7m以下とする。

(3) 延べ面積

必ず「160㎡以上、190㎡以下」とする。

(床面積については、屋内自動車車庫の部分は算入し、ピロティ、玄関ポーチ、屋外テラス、屋外駐車スペース等は算入しないものとする。)

(4) 家族構成

夫婦(40歳代)、子ども1人(小学生)

(5) 要求室

下表の全ての室等は、必ず指定された設置階に計画する。

設置階	室名等	特記事項	床面積
1階	玄関・土間スペース	ア. 玄関と土間スペースは一体として計画する。 イ. 下足入れを設ける。 ウ. 広さは、少なくとも、直径2.5m以上の円が1つ入るスペースとする。 エ. 居間に隣接し、居間と一体的に使用することができるようにする。 オ. 下足利用とし、必要に応じて踏み台を設ける。	15㎡以上
	居間	ア. 1室又は2室にまとめてもよい。 イ. 居間には吹抜けを設ける。吹抜けは、土間スペースの上部に一部かかってもよいものとし、2階部分から居間が見えるようにする。なお、吹抜けは居間部分で13㎡以上確保する。 ウ. 居間は土間スペースに隣接し、土間スペースと一体的に使用することができるようにする。 エ. 食事室には、テーブル及び椅子(計6席以上)を設ける。	適宜
	食事室		
	台所		
	ゲストルーム	ア. 和室とし、押入れを設ける。 イ. 専用のシャワールーム、便所、洗面脱衣スペースを設ける。なお、これらは一体として計画してもよい。	8畳以上(押入れ、シャワールーム、便所、洗面脱衣スペースを除く)
	便所(A)		適宜
2階	屋内自動車車庫	ア. 同一棟内に設ける。 イ. 1台分(自家用)の駐車スペースを確保できるようにする。 ウ. 有効広さは、幅3m×奥行き5m以上とする。 エ. 自動車の出入口にシャッターを設ける。 オ. 屋内で直接行き来できるようにする。	15㎡以上
	夫婦寝室	・洋室とし、ベッド(計2台)及び収納を設ける。	適宜
	子ども室	・洋室とし、ベッド1台及び収納を設ける。	
	浴室	ア. 広さは、心々1,820mm×2,275mm以上とする。 イ. 南側に広がる良好な景観を望むことができるようにする。 ウ. 来客用としても使用する。	4㎡以上
	洗面脱衣室		適宜
適宜	納戸		3㎡以上

(6) 屋外施設等

屋外に下表のものを計画する。

アプローチ	・家族、来客及び自動車の出入りは、建設用地の道路側からのみとする。
屋外テラス	ア. 建築物の南側に配置し、建築物に隣接させる。 イ. 15㎡以上とし、まとまったスペース(少なくとも、直径2.5m以上の円が1つ入るスペース)とする。
屋外駐車スペース	・屋内自動車車庫の他に、建設用地内に1台分(来客用)の駐車スペースを設ける。

2. 要求図書

- a. 下表により、答案用紙の定められた枠内に記入する(寸法線は、枠外にはみ出して記入してもよい)。
- b. 図面は黒鉛筆仕上げとする(定規を用いなくてもよい)。
- c. 記入寸法の単位は、mmとする。なお、答案用紙の1目盛は、4.55mm(部分詳細図(断面)にあつては、10mm)である。
- d. シックハウス対策のための機械換気設備等は、記入しなくてもよいものとする。

要求図書 ()内は縮尺	特記事項
(1)1階平面図兼配置図(1/100) (2)2階平面図(1/100)	ア. 1階平面図兼配置図及び2階平面図には、次のものを記入する。 ・建築物の主要な寸法 ・室名等 ・吹抜けの範囲(1階平面図兼配置図には破線、2階平面図には一点鎖線でその範囲を明記する。) ・「通し柱」を○印で囲み、「耐力壁」には△印を付ける。 (注)「耐力壁」とは、筋かい等を設けた構造上有効な壁をいう。 ・断面図の切断位置及び方向 イ. 1階平面図兼配置図には、次のものを記入する。 ・建設用地境界線と建築物との距離 ・道路から建築物へのアプローチ、屋外駐車スペース ・道路から建設用地及び建築物への出入口には、▲印を付ける。 ・部分詳細図(断面)の切断位置及び方向 ・玄関・土間スペース、屋内自動車車庫の地盤面からの高さ、居間の床高 ・玄関・土間スペース…直径2.5m以上の円(破線で明記する。)、下足入れ、踏み台(設ける場合) ・居間・食事室・台所…テーブル、椅子、台所設備機器(流し台・調理台・コンロ台・冷蔵庫等) ・ゲストルーム…畳、壁掛けシャワーヘッド、洋式便器、洗面台 ・便所(A)…洋式便器、手洗い器 ・屋内自動車車庫…シャッター ・屋外テラス…直径2.5m以上の円(破線で明記する。) ウ. 2階平面図には、次のものを記入する。 ・1階の屋根伏図(平家部分がある場合) ・夫婦寝室…ベッド ・子ども室…ベッド ・浴室…浴槽 ・洗面脱衣室…洗面台、洗濯機 ・便所(B)…洋式便器、手洗い器
(3)2階床伏図兼1階小屋伏図(1/100)	ア. 主要部材(通し柱、1階及び2階の管柱、胴差、2階床梁、桁、小屋梁、火打梁、棟木、母屋、小屋束など必要なもの)については、凡例の表示記号にしたがって記入し、断面寸法(小屋束を除く)を凡例欄に記入する。ただし、主要部材のうち、平角材又は丸太材としたものについては、その断面寸法を図面上に記入する。なお、根太及び垂木については、記入しなくてもよい。 イ. 火打梁の代わりに、構造用面材による床組とする場合には、胴差、床梁、桁を記入したうえで構造用合板の厚さ、釘の種類・打付け間隔を明記する。 ウ. その他必要に応じて用いた表示記号は、凡例欄に明記する。 エ. 建築物の主要な寸法を記入する。
(4)立面図(1/100)	ア. 南側立面図とする。 イ. 建築物の最高の高さを記入する。
(5)断面図(1/100)	ア. 切断位置は、1階の居間の吹抜け及び2階を含む部分とする。また、少なくとも1階・2階いずれかの開口部を含むものとする。 イ. 建築物の外形、内壁面、床面及び天井面の形状がわかる程度のものとし、構造部材(梁、基礎等)については、記入しなくてもよい。 ウ. 建築物の最高の高さ、軒高、階高、天井高、1階床高、屋根勾配、開口部の内法寸法及び主要な室名を記入する。
(6)部分詳細図(断面)(1/20)	ア. 切断位置は、1階の玄関・土間スペースの外壁を含む部分とする。 イ. 作図の範囲は、基礎及び床の部分(床の仕上面からの高さ600mm以上)とし、外壁の柱心から1,000mm以上とする。 ウ. 主要部の寸法等を記入する。 エ. 主要部材(基礎、土台など必要なもの)の名称・断面寸法を記入する。 オ. アンカーボルト等の名称・寸法を記入する。 カ. 外気に接する部分(外壁、その他必要と思われる部分)の断熱・防湿措置を記入する。 キ. 主要な部位(外壁、内壁、床)の仕上材料名を記入する。
(7)面積表	ア. 建築面積、床面積及び延べ面積を記入する。 イ. 建築面積及び床面積については、計算式も記入する。 ウ. 面積の数値は、小数点以下第2位までとし、第3位以下は切り捨てる。
(8)仕上表	ア. 主要な屋根の勾配を記入する。 イ. 外部の主要な部位(屋根、外壁)の仕上材料名及び下地材料名を記入する。 ウ. 内部(居間)の主要な部位(天井、内壁、床)の仕上材料名及び下地材料名を記入する。
(9)計画の要点等	・建築物及び建設用地の計画に関する次の①～③について、具体的に記述する。 ① 玄関・土間スペースの計画について、工夫した点 ② ゲストルームの計画について、工夫した点 ③ 眺望に関して、計画上配慮した点